

第II卷・第5號

近畿甲蟲同好會

(通卷第7號)

會 報

昭和22年11月

昭和二十二年十一月二十一日印刷
昭和二十二年十一月二十五日發行

兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
編輯兼 大 倉 正 文
發行人
大阪市旭區新森小路中二丁目九四
印刷所 宏榮社印刷所
兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
大倉正文方
發行所 近畿甲蟲同好會

VOL. II, NO. 5. THE TRANSACTIONS OF THE KINKI COLEOPTEROLOGICAL SOCIETY NOV. 1947

天牛分布資料 (三)※

林 匡 夫・江 田 茂

NOTES ON THE DISTRIBUTION OF CERAMBYCIDAE (3)

By MASAO HAYASHI & SHIGERU EDA.

今回は筆者の一人江田が林に調査を依頼した多数の標本中、日本及其の近隣諸地方に於て從來未記録と思はれるものを數種発見したので、他に二三の興味ある種に就いての記事をも含め、第三報とすることとした。

- 1) *Megopis (Regosoma) nipponica* MATSUSHITA トゲウスバカミキリ
Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXIV (135), p. 533, figs. 1a, 2a, (1934)
OHKUBO & WADA; Akitsu, I (3), p. 104, (1933)

本種は四國(土佐大杉村)より1934年8月11日川島節氏により採集された一雌によつて記載されたもので、其他の記録としては、其後大久保・和田兩氏が同じく土佐の田ノ口村より1935年8月10日永野幸男氏採集の1頭(雌雄の別其他の記載を缺く)を擧げられたに過ぎず、原記載によれば Type の1雌は觸角を一部切損したもので、且雄は未知である。筆者等は幸ひ、九州にて得られた本種の完全なる雌雄各1頭の標本を所藏するので、原記載を補足、九州を新分布地として記録する。

雌との相違點 雌に比し、体長に對する頭部及前胸の占める割合が大き。即ち頭部、前胸及翅鞘の夫々の長さを測定すると雄の場合は6:6:27となり、同じく雌は4:5:27を示す(單位mm.)。頭部、觸角及肢は暗赤褐色、翅鞘は汚黄色、体下は帯褐黄色を呈する、觸角瘤は發達し、顔面は明かに凹む。觸角は体と殆んど等長、

※ (一)及(二)は昆蟲世界 48 (567), pp. 126-129, (1944); 49 (569), pp. 27-30, (1945) に夫々林が伊賀正汎氏と共著で發表。

第1乃至3節は頑丈、第4節以下は稍々細く明るい色彩を呈し、全面に極めて疎に顆粒狀點刻を散布する。第1節は太くその中央部にて複眼後縁を越す。第3節は甚だ長く第1節の略々3倍、第4節は第1節と等しく、以後の各節は漸次短縮する。前胸は側面に雌より屈曲度の異なる弓型龍骨狀隆起あり、前後兩縁側突起はより顯著であり背面基部前方の小壓平部はより明瞭に存する。翅鞘は末端に向ひ、漸次狭められる。尾節板後縁中央はより大きく弧狀にえぐられる。体長：39 mm.

Allotype: 1 male, Shiroyama, Kagoshima, Kyusyu; August 10th, 1942. (n. dist.)

雌の記載追加 觸角は一般に細く形造られ翅鞘先端より翅長の $\frac{1}{4}$ 附近に達する。第4節は第1節より長く、第3節の $\frac{1}{2}$ よりも短い。第5節以下は漸次短くなる。体長：36 mm.

Paratype: 1 female, Kagoshima, Kyusyu, July 20th, 1940 (n. dist.)

Typeの体長(32 mm.)に比し何れも大形であるが、これは個体的な變異に過ぎぬものと考へられる。尙本種は目下の處、極めて稀少の種で且原産地四國及九州に於ても南部以外からは恐らく發見は至難ではないかと思はれる。

2) *Peithona prionoidea* GAHAN =セノコギリハナカミキリ

Fauna Brit India, Col. I, p. 72, fig. 27, (1906): KANO; Trans. Nat. Hist. Soc.

Formosa, XVI (88), p. 57, (1927): TAMANUKI; Fauna Nipponica, X, VIII, (XIV)

Ceram., 1, p. 64, fig. 22, (1939).

本種はシツキムよりの OBERTHÜR の蒐集品中の唯一雌標本により記載され、臺灣よりは同じく1雌によつて鹿野忠雄氏が初めて記録したもので、其後新しい記録を全く缺くハナカミキリ離れのした天牛であるが林の許に以前より所藏し、今回の調査で江田の標本中にも見出された本種は何れも等しく原記載と多少異なる形態を有してゐるが、明かに未知の雄と認められるので、雌との相違點を記し、記録して置く。

雌との相違點 觸角瘤はより強く隆起し、ために顔面の傾斜はより急角度を呈する。觸角は甚だ長く第7節の略々中央にて翅端を越え、体長の約2倍長。第1節は太く、長く、第3節と殆んど等しく、第3節は第4節と等長であり第5節よりも短く、第5.6節は長さ等しく、第7節より少しく短く、第7乃至10節は略々等しく、末端節は細長、第10節の $\frac{1}{2}$ 倍に達し且彎曲する。前胸背板は稍々長く、中央僅か前方の側縁に鋭い刺狀突起を有し、先端は少しく上反する。小楯板は短く、端部兩側の角張る舌狀を呈する。翅鞘は側縁殆んど平行、後方は僅かに狭まる。肢は細型であるが腿節は基部より漸次肥大し、端部前方は最も太い。体長：25~28.5 mm.

Paratypes: 1 male, Hokuzanko near Hori, Central Formosa, June 11th, 1938, in M. Hayashi's Coll.; 1 male, Hori, C. Formosa, June 12th, 1940, Collected by Mr.

Tehen, in S. Eda's Coll.

3) *Kamuia bimaculata* MATSUSHITA フタモンウスバネカミキリ

Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ.; XXXIV (2), p. 240, pl. I, fig. 3, (1933)

本種は村山醸造博士が台湾(詳細なる採集地の記載を缺く)より1932年6月, タブノキ(イヌグス) *Machilus Thunbergii* SIEBOLD et ZUCCARINI から採集された1雄により記載されたもので, 細長く, 特に翅鞘が長く, 基部の巾の3倍に達し, 両側は殆んど平行で, 翅端は丸く, 体は赤色を帯びた暗褐色で, 觸角, 前胸, 翅鞘及び細長い肢は淡黄色半透明を呈し, 翅鞘中央に黒褐色の1横帯を有する種であるが, 手許の個体は Hori に於て1942年7月11日に採集されたもので, 原記載の如く, 前胸は頭部及び体下に比し色彩はより淡色を呈しないで殆んど同様であり且大型(体長: 18 mm. Type は 15 mm.) である點で相違する。

4) *Leontium viride* THOMSON ミドリカミキリ

Syst. Ceramb., p. 175, (1864)

本種は日本では極めて普通の種に屬し, 金綠色に輝く個体が多いが, 時に青綠色を呈する場合も認められる。今回北部朝鮮より採集された1個体を檢したが, 形態的には全く日本産のものと區別出来ないが, 唯翅鞘の色彩が基部より翅端にかけ漸次金緑一金青一紫金色の順に變化する美しい個体であつた。台湾には特化したと考へられる, 金赤色の縁取を有する *Leontium bicolor* KANO を産するが, 本種としては從來朝鮮よりは未知のものであつた。

Locality; Fusenkogen, North Corea, May 29th, 1941, 1 Ex. in S. Eda's Coll. (n. dist.)

5) *Saperda tetrastigma* BATES ムネモンヤツボンカミキリ

Ann. Mag. Nat. Hist., (5) IV, p. 466, (1876) (Japan); Journ. Linn. Soc. London, Zool., XVIII, p. 255, (1884) (Hokkaido): MATSUSHITA; Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV (2), p. 403, (1933); Ins. Mats., XII (2/3), p. 106, (1933) (Shikoku): OHBAYASHI; Ins. World, 48 (563), p. 8, (1944): MITONO; Cat. Col. Japon. pars 8, 94, Ceramb., p. 202, (1940): OHKUBO & WADA; Akitsu, I (3), p. 163, (1938)

= *yezoana* MATSUSHITA; loc. cit., p. 405, pl. V, fig. 7, (Cagosima) (1933): SEKI; Ins. World, XXXIX (451), p. 20, (1935); Ent. Wor'd, IV (28), p. 20, (1936); Ins. World, 50 (572), p. 24, (1946) (KyuSyu): HIRAYAMA; Gensyoku-Kochuzufu, pl. 48, fig. 23, p. 153 (1940): MITONO; I. c., p. 204, (1940)

本種は W. W. SAUNDERS の Collection 中より日本産として記載された種で, 松下眞幸博士(1933)が, 北海道より Cagosima *yezoana* として記載され, 後1938年自ら本種の synonym とされたものであるが, 水戸野武夫氏及關公一氏はこの兩

種を一應別種として取扱つて居られる。筆者等は眞の *S. tetrastigma* の Type を檢し得ず且記載を檢討しても確たる相違を發見出來ない以上、後種の原因記者たる松下博士に従ひ一應兩種を同種として取扱つて置く態度を取りたいと思ふ。筆者等は台灣産の本種を檢したが、形態及体の斑紋の形狀、位置等は全く異らず、唯色彩は著しく橙黄色を帯びる點が相違するに過ぎない。

Locality; 1 female Shishito, Taityu, Formosa, June 10th, 1940 collected by Mr. Tchen, in S. Eda's Coll. (n. dist.)

6) *Cagosima sanguinolenta* THOMSON ⁽¹⁾ ハンノキカミキリの色彩變異

江崎・堀・安松三氏著原色日本昆蟲圖説に圖示された本種は、解説の通り普通に見受る個体と異り、翅鞘縫合線部の赤色縦帯を殆んど缺いてゐるものであるが、この傾向を有するものの採集例としては西口進一郎⁽²⁾氏(1941)が大分縣直入郡都野村大船山より記録されてゐる。九州にはこの傾向の個体は割合に採集されてゐるらしいが、林は更に鳥取縣氣高郡正條村霧見産、1942年6月17日採集の標本を所藏するので、本州にも分布してゐることを記録し、尙其上翅鞘の黒色部が殆んど暗赤色を呈する鹿兒島縣長良郡霧島山産、1940年7月12日及び1941年7月30日夫々採集の2個体を有してゐることも併せて記して置く。本屬名は Type Locality たる鹿兒島を紀念して附されたものであるが、その Type Locality 附近に原種より違つたものゝ多いのは興味深い。

7) *Thranis variegata* BATES ⁽³⁾ ドラフホソバネカミキリの變異

本種は既に原著者BATES (1873) が種名ともし、記載中に指摘した様に、翅鞘の黄褐色第1帯(又は前帯)の極めて不規則に變化するばかりでなく、第2帯も變化多く、其他体各部の色彩も極めて變化に富む外、体長も相當の中を有してゐる様である。翅鞘の斑紋は暗色化するに従ひ、BATES (loc. cit., p. 196) の "a bicuspid black spot" と形容した肩部の黒紋が漸次擴大して、第1第2帯間の黒色部と連續し、遂に小盾板側方に細い黄褐色縦帯を残す程度に達し(a; 1雄, July 13th, 1939; b; 1雄, July 26th, 1940 北海道札幌丸山産)、又第2帯も側縁より縫合線に向ひ漸次消失し、可成進んだものでは縫合線側に微小な黄褐色紋を残す程度となり(1雌, July, 1942; June 25th, 1944, 福岡縣企救郡福智山, 天野昌次氏採集)、遂に全く之を缺く(a, b)に至る。又現在迄に檢した、前述と反對の傾向を有するものとしては肩部の黒斑が漸次縮少し且黒色のものが淡色化することが認められる(1雄, 採集日付不明, 和歌山縣伊都郡高野山産)が、この第2帯は同時に擴大せず略々普通の

(1) p. 301, pl. 136, 529-1, (1938)

(2) 西口進一郎; 九州昆蟲學會報, III (1), p. 42, (1941).

(3) BATES, H. W.; Ann. Mag. Nat. Hist., 4, XII, p. 196, (1873)

割合を示し、前者の變化とあまり關係はない。觸角の色彩は原記載によれば“ruddy brown”とのみ記してゐるが鹿野忠雄氏⁽¹⁾(1932)は“reddish brown, with the first two or three joints infuscated”と述べ、松下眞幸博士⁽²⁾(1933)は札幌産のものに“Führglieder 8 und 9 blassgelb gefärbt”なるを認めて記録、福田氏⁽³⁾(1938)も“柄節及梗節は赤褐色、第3節以下は第8・9兩節鮮黄色なるを除き暗黄褐色”と記したが、其他種々に變化し全く黒色を呈するものもある(a)。肢も種々變化に富み全く黄褐色のものから全く黒色のもの迄あるが、(b)は脛節の基半暗色であるのを除き他は全く黄褐色を呈する。現在迄本種に就き記したBATES, 鹿野, 福田, 平山(1941)の諸氏は皆雌を以てしたもので、唯松下⁽²⁾(1933)博士が体長に就き大きな例として(雄, 21mm.)と述べられたに過ぎず、雄の形態の差異に就き記載を缺いてゐる。筆者等の檢した處では雌と次の點で相違する。

体は小さく、細く、觸角は翅端僅か前方に迄達する。翅鞘は細く、縫合線側に於いても小楯板少々後方に於てより強くえぐられる。一般に雌より暗化の傾向が多い。

松田氏⁽⁵⁾(1946)の述べた黒化型は恐らく雄ではないかと思はれる。

体長：雄，11～13mm。(實際檢した數値のみ)。

♀；雌，18～21mm。()。

-
- 1) KANO, T; Kontyu, VII (3), p. 132, (T. sapporensis KANO) (1932)
 - 2) MATSUSHITA, M.; Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV(2), p. 225, (1933)
 - 3) 福田 彰；日本の甲蟲，II (2), p. 97, f. (1938)
 - 4) 平山修次郎；蟲の世界，4 (7/8), p. 3, pl. 11, f. 7, (1941)
 - 5) 松田勝毅；昆蟲世界，50 (574), p. 29, (1946)

追記 本稿脱稿後大林一夫氏が標本中に四國石槌山(VIII—8, 40, M. TAMAOKI 氏採集)のトゲウスバカミキリを所藏されてゐるといふメモを發見したので産地の一つとしてここに追加して置く。

キイロミヤマカミキリ中部本州に産す

中 根 猛 彦

Margites fulvidus (PASCOE) キイロミヤマカミキリは平山氏の圖譜、水戸野氏の目録によれば、支那、臺灣、九州に分布するが、平手雅二氏が名古屋帝大理學部生物學教室に寄贈された標本中に同氏が愛知縣定光寺に於て採集(28-VI, 1942)された1頭があつたので新分布として報告する。寄贈された平手氏に御禮申し上げる。

東北地方の天牛類 (一)

林 匡 夫

ON THE LONGICORN-FAUNA OF TŌHOKU DISTR. (1)

By MASAO HAYASHI

本題の下に今後報告する種は主として現在會津若松市に在住の黒澤良彦氏の好意により同氏の採集品を検し得たものを基礎とするものであることを明らかにして、ここに同氏に絶大なる謝意を表す。東北地方の本類についての報告中まとまつたものとしては加藤武夫⁽¹⁾(1936)竹内誠一⁽²⁾(1939)及び黒澤良彦⁽³⁾(1942)の3氏のものがあり。前2著は既出の諸記録がまとめられてみて便利であるが一般に岩手及山形の一部に限られ、記録種の種名中には再検討を要するものもあり、且未開拓の地も多く今後の調査に待つ處が多い。同地方の諸賢の御研究を期待する次第である。

1. *Lemula decipiens* BATES (1884) キバネニセハムシハナカミキリ

多数の本地方の標本を検すると先に筆者(1944)⁽⁴⁾の記した如く吾妻山麓瀧澤(海拔650m)(VI-1, 41)標本と同様全部 BATES の "*elytris fulvis*" ならず翅鞘は帶黄赤褐色 yellowish ochraceous を呈する。瀧澤ではアキガミ *Elaeagnus umbellata* THUNBERG の花上より *Pidonia* (*Pseudopidonia*) *amentata*, P. (*P.*) *signifera* f., *Grammoptera charybeela* 等の花天牛と同時に採集され、山形縣では福島縣同様5月下旬より6月初めにかけて最も多く発生し、山形市附近ではウハミズザクラ *Prunus Grayana* MAXIMOVITZ の花上に *Acmaeops* (*Dinoptera*) *minuta* に混じり発見されるといふ。福島縣北會津郡奴田山(V-25, 47)、同吹矢山(VI-5, 47)、同東會津郡門田村大字面川宇澤(V-24, 46)。

1a. *Lemula decipiens* BATES ab. *rufithorax* (PIC) (1901) (ヒツクニセハムシハナカミキリ)

門田村(V-24, 46)。本個體はズミ *Malus Toringo* SIEBOLD の花上にて得られ、筆者(44)の擧げた京都府貴船山産の標本より更に濃色である。

2. *Lemula nishimurai* SEKI (1944) アカイロニセハムシハナカミキリ [= *L. hiratai* HAYASHI (1944)]

福島縣北會津郡東山村背灸山(820m)(V-23, 47)、吹矢山(V-30, 47)。廣島縣冠山及京都府貴船山の外本種が東北より発見されたことは興味深く吹矢山の1雄は花上で、背灸山の1雌は立木の幹で得られてゐる。

3. *Acmaeops* (*Dinoptera*) *minuta* (GEBLER) (1832) ヒナルリハナカミキリ

(1) 加藤武夫; 岩手蟲乃會時報, Vol. I, No 1, PP. 5-11, (1936)

(2) 竹内誠一; 岩手縣甲蟲誌(第一卷), PP. 76-95, (1939)

(3) 黒澤良彦; 昆蟲界, Vol. X, No. 106, PP. 779-795, (1942)

(4) 林 匡夫; 關西昆蟲學會會報, Vol. XIV, Pt. 1, P. 25, (1944)

奴田山 (V-25, 47), 吹矢山 (V-30, VI-5, 47), 門田村 (V-24, 46). 本種背面の色彩は明かに2型を認め得る. 1は玉貫光⁽⁵⁾氏 (1939) の記載されたルリ色と形容されるもの, 他は暗緑色を呈するものであるがこの2型は雄雌を通じ各地に広く共通して認められる様子である. 所謂 f. *japonica* PIC (1907) は雄腹部末端, 雌全腹面が夫々黄褐色を呈するものであるが檢したものの内末端2-3節黄褐色のものもあり既に大林一夫氏 (1942) もこの變化の連続すべきを指摘されて居り且一般に原種と混じ發見されても居るし form として區別する程の變化ではないと思ふ.

4. *Leptura* (s. str.) *variicornis igai* TAMANUKI (1942) イガブチヒゲハナカミキリ

山形縣西置賜郡南小國村飯豊山大蔵尾根 (VIII-8, 43). 2雄, 1雌.

本亞種は伊賀正汎氏の和歌山縣高野山産の2雌によつて玉貫光⁽⁷⁾氏の記載されたもので相違點としては“體はより大型で前胸背板に叢毛なく且點刻淺く赤色又は暗赤色で前後兩縁のみ黒色を呈する”點を挙げられてゐるが, 上記の標本中原記載にふれられなかつた雄は前胸全く黒く微毛を生じ且後脛節が著しく扁平且彎曲してゐる點で更に原種と甚だ相違する. 雌は玉貫光⁽⁷⁾氏の記載に略々一致する. 更に筆者は多數の標本中より上述の特徴を有する雄標本を探査した結果岩手縣區境峠産の外長野縣山田温泉等のものを發見したがいずれも原產地附近産 (高野山, 鷹摩壇山, 大台ヶ原) のものとは稍小型であり多少趣を異にするので更に材料を求め研究中であるが少くとも關公一氏 (1946) のとられた如く *igai* を form に過ぎないものとする考へ方には反對で亜種として分つに充分であると思ふ. 本地方のものは嚴密な意味では *igai* でも *variicornis* でもなくその中間に位置するが原種よりは遙かに *igai* に近く *igai* の定義を雄の特徴をも加へ改めて規定する際之⁽⁸⁾に含めてもよい程度のもと思はれるので一應上記の如く記録して置く.

5. *Strangalia* (s. str.) *regalis* BATES (1884) オホヨツズデハナカミキリ

東北では稀の様で黒澤氏 (42) が二井宿峠で基本型唯1頭を記録されたが最近福島縣北會津郡東山村湯本 (VII-11, 47) で得られた旨通知があつたに留る様である.

6. *Strangalia* (s. str.) *duodecemguttata* (FABRICIUS) (1801) キンモンハナカミキリ

岩手縣區境峠 (VI-30, 44). 江田茂氏所藏.

7. *Rsemium striatum japonicum* MATSUSHITA (1933) オホマルクビヒラタカミキリ (本州亞種)

本亞種は原種とは“觸角がより長く, 雄では翅鞘の中央に達し, 且翅鞘も又より長く肩部巾の2½倍に達し, 前胸の點刻は明かに顆粒状を呈せず幾分鋸状をなし (原種の觸角は翅鞘中央に達せず, 翅鞘は肩部巾の2倍にとどまり, 前胸の點刻は顆粒状), 體は黒色翅鞘は赤褐色を呈し

(5) 玉貫光一; 日本動物分類, 天牛科 1. 細天牛亞科, 花天牛亞科, P. 110, (1939)

(6) 大林一夫; 昆蟲世界. Vol. 46, No. 538, P. 11-12, (1942)

(7) 玉貫光一; 日本動物分類, 天牛科 2. 花天牛亞科, P. 93, P. 119, (1942)

(8) 關公一; 新日本産天牛科目録, P. 25, (1946)

(9) 近く結果公表の豫定.

體上面は全く光澤を缺く”等の諸點で區別されたもので原産地は日光、岩手、秩父である。筆者は上記特徴に一致する長野縣輕井澤（VII—22, / 39, 長谷川仁氏採集）、山形縣 南置賜郡吾妻山（VI—20, / 43, 黒澤氏採集）及び岩手縣盛岡市（VII, / 36, 武田宗夫氏採集）産の3雌を所藏するが、又奴田山（V—21, / 46, V—15, / 47）の1雄2雌は翅鞘が黒褐乃至黑色を呈する外體上面の光澤を有するもの多く特に1雄の翅鞘は肩部巾の2¼倍に達するにすぎない。しかし他の點では略々一致し且本屬のものはヨーロッパ、シベリヤを通じ體各部の色彩變異が多く記録されてゐるので上記亞種に含めて置く。原種はヨーロッパ、コーカサス、シベリヤ、滿洲、樺太を経て北海道迄分布するものとされてゐるので今後東北の諸高山における探究が期待される。

8. *Clytus yedoensis* KANO (1933) トウキヤウトラカミキリ

本種は1雌にて記載以來全く記録を缺き原産地東京以外には知られなかつたが今回吹矢山（V—30, / 47）より黒澤氏により發見されたことは非常に興味深いし採集者たる同氏の功績は大なるものがあると思ふ。

9. *Epiclytus yokoyamai* (KANO) (1933) ヨコヤマトラカミキリ

吹矢山（V—30, / 47）。

10. *Rhaphuma xenisca* (BATES) (1884) ホソトラカミキリ

秋田縣仙北郡田澤湖畔（VIII—8, / 35, 千葉久氏採集）。（この項續く）

會報 第一卷 目次

		通卷第1號	1頁
戸澤 信義	序 文		
大倉 正文	大阪附近産アラゴミムシ屬に就いて	1	2
林 匡夫	<i>Eupogonius tenuicornis</i> BATES 九州に産す	1	24
後藤 光男	京阪神地方に於ける斑蝥相に就いて	2	1
大澤 省三	甲蟲類の異常個體二例	2	7
近畿甲蟲同好會會則	投稿規定、會員募集	2	8

會報 第二卷 目次

		通卷第3號	1頁
黒澤 長彦	<i>Aglyrus cyaneoniger</i> E. SAUNDERS (クロナガタマムシ) の分布に就いて		
後藤 光男	キンケトラカミキリを能勢に採る	3	3
横田榮三郎	<i>Cicindera ovipennis</i> BATES の多産地	3	3
中根 猛彦	日本産 <i>Psilocladus</i> 屬のホタルに就いて	3	4
	シワナガキマハリの學名	3	7
東 勝公	甲蟲2種の觸角畸型に就いて	3	8
伊賀 正汎	四國劍山に於ける吉丁虫相に就いて	4	9
大澤 省三	コウヤホソハナカミキリの學名及び變異に就いて	5	19
黒澤 長彦	伊賀正汎 吉丁虫雜記 (1)	6	25
黒澤 長彦	本州未記録の花天牛一種に就いて	6	29
中根 猛彦	チュウヂヨウハナカミキリ九州に産す	6	30
	ウスチャヤジヤウカイの學名	6	30
	訂正一件、原稿、短報募集、會費の御拂込について	6	30
林 匡夫・江田 茂	天牛分布資料 (三)	7	31
中根 猛彦	キイロミヤマカミキリ中部本州に産す	7	35
林 匡夫	東北地方の天牛類 (一)	7	36